

1. 単元名(主題) 「前期プレ探究研究計画発表会」

～自らの研究計画を論理的に発信し、相互評価を通じて研究デザインを磨き合う～

2. 本時の主題の概要および設定理由

「SS I (総合的な探究の時間)」では、生徒が自ら問いを立て、論理的に探究を進めるプロセスを重視している。これまでに生徒は、自身の興味・関心に基づき「研究テーマ」「研究背景」「リサーチクエスション」「仮説と検証方法」を盛り込んだ『プレ研究計画書』を作成してきた。また、「SS I (情報)」との教科横断的な連携により、事前にスライドデザインやプレゼンテーション技法について学習し、発表用スライドを構築している。

本時は、これまでの取り組みの集大成として「プレ研究計画発表会」を実施する。本発表会は、1チームあたりの持ち時間を「発表4分、入替え・相互評価2分」とし、質疑応答はあえて行わない設定とする。質疑応答を行わないことで、時間内の進行を厳密に管理し、生徒が数多くの多様な研究計画に触れる機会を最大化する。限られた4分間という時間内で、自らの研究計画の核心を他者にわかりやすく、かつ論理的に説明するスキルを養う。

また、発表を聴く生徒は「SS課題研究発表ルーブリック」の4観点に基づき、相互評価システムを用いてリアルタイムで評価・フィードバックを送信する。他者の発表を客観的に評価するプロセスを通じて、生徒は自らの研究計画における論理的な弱点や表現上の課題に気づき、今後の本格的な課題研究に向けた研究デザインのブラッシュアップへ繋げる。この一連活動は、主体的な探究態度の育成において極めて重要なステップであるため、本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **論理的なプレゼンテーション:** 作成した研究計画(テーマ、背景、問い、仮説・検証方法)を、スライドを用いて論理的、かつ聞き手を意識して明瞭に発表できる。
- 2) **客観的な相互評価:** 「SS課題研究発表ルーブリック」に示された客観的な基準に基づき、他者の発表を適切に評価し、多角的な視点を養う。
- 3) **メタ認知と自己改善:** 他者の発表や評価プロセスを通じて得られた気づきをもとに、自らの研究計画および発表技術に対する振り返り(自己評価)を行うことができる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: なし
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用評価・リフレクションフォーム: 『相互評価フォーム』、『自己評価フォーム』
- 生徒用発表資料: 各自が作成した『研究計画発表用スライド』
- 教員用管理資料: 『発表会用教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『発表会用HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『前期プレ探究研究計画発表会 実施要項』
『前期プレ探究研究計画発表会 スライドリンク集』
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』、『SS課題研究発表ルーブリック』

5. 本時の展開(90分)

※本時は、短縮時程2コマ(計90分)で展開される「プレ探究研究計画発表会」の指導計画である。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
10分	(1) ガイダンスと発表準備を行う。 - 本時の目標、発表手順、評価方法について確認する。 - 各自の情報端末(Chromebook等)を起動し、Classroomから『相互評価フォーム』を開く。	- 本時の発表の流れを説明する。 - 発表時間(4分)および入替・相互評価時間(2分)のルールを徹底するよう指導する。また、本時は質疑応答を行わない旨を伝える。 - 教員は、あらかじめスライドへのリンクが整理された管理シートを活用し、プロジェクタ投影環境が速やかに整うよう支援する。 - 遅刻者や機材トラブルに対して、副担当の教員が迅速に個別サポートを行う。
30分	(2) 研究計画発表Ⅰ(前半グループ)を行う。 - 前半の5チームが順番に登壇し、発表を行う。 - 発表を行っていない生徒は、発表を傾聴しながらループリックに沿って評価を行い、発表終了ごとに『相互評価フォーム』を送信する。	「誠実に、ハキハキと、分かりやすく発表すること」を意識させる声かけを行う。 4分間の発表時間と2分間の入替・評価時間を厳密に管理する。 - 発表終了後の入替時間(2分間)を利用し、生徒全員が『相互評価フォーム』への入力を完了して送信するよう促す。 - 教員は、全生徒が『相互評価フォーム』を毎回の発表終了ごとに確実に送信しているか、適宜巡視して確認する。 - 次の発表チームは、前の発表の相互評価時間中に速やかに機材を接続し、発表の準備を整える。
10分	(3) 中間休憩および発表準備を行う。 - 各教室にて、前半の進行状況の調整を兼ねた10分間の休憩を挟む。 - 後半の発表チームは、必要に応じて接続テストを行う。	- 前半の進行に遅れが生じている場合は、この時間を利用して調整を行う。 - 後半の発表チームに対して、速やかに登壇・発表ができるよう、機材の再確認を促す。
35分	(4) 研究計画発表Ⅱ(後半グループ)を行う。 - 後半の6チームが順番に登壇し、発表を行う。 - 発表を行っていない生徒は、発表Ⅰと同様にループリックに沿って客観的に評価し、発表終了ごとに『相互評価フォーム』を送信する。	4分間の発表時間と2分間の入替・評価時間を厳密に管理する。 - 発表終了後の入替時間(2分間)を利用し、生徒全員が『相互評価フォーム』への入力を完了して送信するよう促す。 - 教員は、全生徒が『相互評価フォーム』を毎回の発表終了ごとに確実に送信しているか、適宜巡視して確認する。 - 次の発表チームは、前の発表の相互評価時間中に速やかに機材を接続し、発表の準備を整える。
5分	(5) 本時の振り返りと自己評価を行う。 - 本日の発表・評価活動全体を振り返る。 - Classroomから『自己評価フォーム』にアクセスし、自己評価の入力および送信を開始する。	- 本日中に『相互評価フォーム』の送信をすべて完了させるよう改めて指導する(締切時間の明示)。 - 自身の発表を振り返る『自己評価フォーム』について、本時の気づきや他者の発表から得た視点が薄れないうちに(遅くとも指定の期日までに)送信するよう指導する。

【参考資料1】 発表内容、スライド構成： タイトルスライドを入れて4枚以上で作成。デザインは自由。

※下の表の一番右の列「メソッド」は『課題研究メソッド』の参照ページを示している。

	発表内容	説明すること	ブレ研究計画書	メソッド
1	研究テーマ	研究テーマについて、分かりやすく説明する。	(1)研究テーマ	p. 142 ①
2	研究背景	リサーチエスチョンの背景や仮説の根拠となっている事実を述べる。	(2)研究背景	p. 142 ③
3	リサーチエスチョン	何がまだ答えの明らかになっていないことなのか、自分たちが何を解決したいのかを明確に説明する。	(3)研究目的 ①リサーチエスチョン ②リサーチエスチョンの意義	p. 143 ④⑤
4	仮説と検証方法	仮説の根拠を現在明らかになっている事実をもとに、論理的に説明する。	(3)研究目的 ③仮説 (4)研究手法	p. 143 ⑥
5	参考文献	本発表で引用・参照した文献をまとめて示す。		p. 145 ⑩

【参考資料2】 評価項目：『SS課題研究ルーブリック表』の8観点のうち、項目2,3,6,7の4観点を評価

	レベル4 (卓越している)	レベル3 (十分できている)	レベル2 (概ねできている)	レベル1 (改善を要する)
課題の背景と意義への理解	知的好奇心と社会背景が結びつき、多角的根拠で意義を示す	意義は説明できるが、自身の問題意識との繋がりが不十分	意義の説明が抽象的で、なぜ自分が取り組むのかが不明瞭	研究の意義や問題意識に至った背景が説明されていない
問いと仮説の適切性	先行研究に基づき本質を捉えた独創的で検証可能な仮説を設定	検証可能な仮説はあるが、先行研究調査や独創性に課題あり	仮説はあるが論理的根拠が弱く、検証方法が不明確	検証可能な仮説として具体化されず、研究の軸が不明確
発表の明瞭性	聞き手を常に意識し、言葉・声・視線まで工夫した対話的発表	流れは分かりやすいが表現が単調で、聞き手への工夫不足	原稿に沿って説明するが、聞き手を意識せず一方的	資料を読むのみで声量不足等もあり、内容が伝わらない
視覚的表現のデザイン性	図表・配色を緻密に設計し、要点を強調して説得力を高める	図表を用いて整理されているが、重要情報の強調が不十分	図表はあるが配置や情報量の調整が不適切で理解しにくい	文字中心の構成で視覚的工夫がなく、理解を妨げている